

## 新給食センター PFIと一本化 自校方式に転換し、日本一の給食こそ

鶴岡市は、新学校給食センターの整備について、令和5年度に基本計画を策定します。事業手法は、「民設民営」のPFI導入を検討するとしています。

現在の鶴岡センターは「公設直営」です。PFIの手法は、「公共施設の整備に、民間の資金と経営能力・技術能力を活用することにより、効率的かつ効果的に実施される」と

されています。

しかし、民間の利益追求が優先され、働き手を非正規に置き換えることになり、公的責任が後退します。

「国のPFI事業で2367件の不適切業務、給食への異物混入や4割が使えない駐車場も」（日経クロステック21年6月1日）など、失敗例が多くあります。給食施設の建設・管理を民間丸投げするPFI方式には反対です。

将来は、櫛引、朝日など他センターの統合も進めるとしています。経済性や効率性が優先され、子どもたちが喜ぶ給食から遠くなり

ます。

新センターではなく、自校方式に転換し、給食発祥の地として、日本一の給食を実現し、子育て世代から選ばれべきです。

## 4 新学校給食センターの整備について

主要な検討事項である(1)建設地、(2)事業手法、(3)他センターの統合については、整備課題調査を踏まえ整理し、新給食センター基本計画を策定する。

### (1) 建設地

整備課題調査において、以下の条件を満たす候補エリアを調査・選定する。

- ・2時間喫食が可能な位置
- ・都市計画上の用途地域等との整合性
- ・必要な施設規模に応じた用地を確保
- ・上下水道、電力などインフラの状況

なお、現センター及びその周辺エリアも有力な候補地として調査対象とする。

### (2) 事業手法

国の指針に基づくPFI導入の検討にあたり、簡易評価を実施。この結果を受けて、6年度に導入可能性調査を予定。

※PFI等の導入可能性を考慮して、今般の議会説明後、給食センター職員等に対して説明を行う。

### (3) 他センターの統合

施設の経過年数と設備等の現状、対象となる小中学校の状況などを踏まえ、新センターへの統合について判断する。

鶴岡センターに次いで古い櫛引センター（平成7年建築、28年経過）など、新センター開設後の各施設の統合の件について、具体的な検討を進めていく。

### 【年次スケジュール】

| 5年度                  | 6年度        | 7年度               | 8年度                       | 9年度  | 10年度 | 11年度 |
|----------------------|------------|-------------------|---------------------------|------|------|------|
| 整備課題調査(委託)<br>基本計画策定 | PFI導入可能性調査 | アドバイザー業務委託(約18ヶ月) | 設計建設モニタリング業務委託<br>基本・実施設計 | 建設工事 | 開設   |      |

P7

議会への主要事項説明会（令和5年8月18日）資料から

## ふるさと賛歌 3

鈴木重雄（八色木）

日向三右衛門のこと  
豊栄村の豪農日向三右衛門は、八栄島村誕生まで大きな影響があったので、三右衛門家について述べてみたい。

明智光秀に近い後裔の三左衛門と名乗っていたが、文政年間に三右衛門になった。これは藩主酒井左衛門尉を憚（はばか）って三右衛門になったようである。

明治16年家督を継ぎ社会事業家として知られ、北海道士別市に日向農場を開墾し入植させた。現在士別市に日向温泉、日向スキー場、日向公園、日向神社、開拓記念碑がある。

八栄島村の新村造成  
田川郡の中心地に位置し、交通の便も恵まれ、特に富裕な資産がある訳でもなかったのに、「新村造成願」が請願されたのであった。

他町村にはこのような請願がなかったのに、当村にはその資料があったのは貴重である。

「新村造成立之儀ニ付願」を要約すると、本県に於いては、来たる明治22年4月を期し、新制度施行のため、特に委員を設けて、新村造成等の取調べをしたところ、各村においてこれを許諾し、基礎まさに確定せんとす。

基調査によれば、長沼、小中島、八色木、豊栄の4ヶ村連合を分割し、小中島を藤島村に、八色木村と豊栄村の2ヶ村を長沼村に連結して、各新村を造成せんと欲する計画なりき。是れ小中島と八色木、豊栄の3ヶ村民等服するにあたわさるによりて、謹んで知事閣下

碑文  
日向農場ハ明治三十五年山形県庄内ノ人貴族院議員日向三右衛門同衆議院議員齊藤良輔両氏ノ奔走ニヨリ誕生、日向氏農場主トナリ、同郷士久松栄作氏支配人トシテ奔走セリ、山形県庄内地方ヨリ三十数戸移住入植ス。当時ハ人跡未到ノ地ニシテ榆ヤチダモ等ノ大木天ヲ摩シ屋尚暗ク背丈ヲ没スル荊棘ウツ蒼タリ、入植ノ人々ハ日夜辛万苦鋭意開拓ニ励ミタリ、土地肥沃ナルモ天塩川ノ氾濫毎年ノ如ク



下

# 都市監査委 全国総会

議会選出監査委員 加藤鉦一



査の更なる充実強化に向けて」と第して、大阪公立大学大学院の遠藤尚秀教授です。

監査要点はこれまで、

- ①合規性
- ②正確性
- ③経済性
- ④効率性
- ⑤有効性

の5つが言われてきましたが、自治体監査の深化として、「リスク・アプローチ」の強化が取り上げられました。

「リスク」とは、「組織目的の達成を阻害する要因」のことで、組織にはリスクが付き物で、それを洗い出し、

監査委員がコントロールすることです。

さらに、翌日の分科会では、「内部統制に依拠した監査の実務について」と題し、福知山公立大学の井上直樹教授が講演。

内部統制は、首長が組織内に構築し、リスク判断と回避等を進め、内部統制評価報告書を作成し、監査委員が審査する仕組みです。

2017（平成29）年6月の地方自治法改正で導入され、都道府県と指定都市に義務化、その他市町村は努力義務です。

リスクに重層的に対応することが求められ、市でも導入が課題です。

## 東田川史跡物語

青山 崇

全国の都市から約1300人の出席で、会場は満杯です。

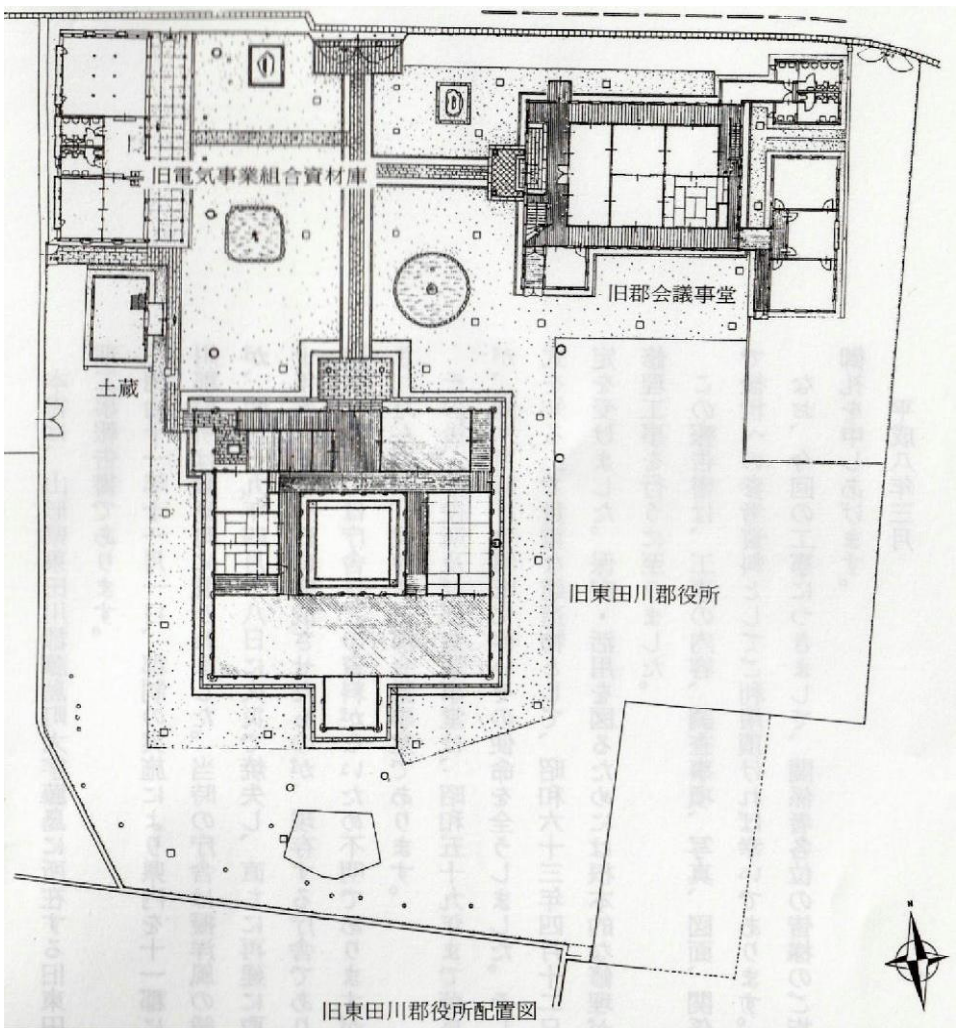
総会では、在職7年以上の監査委員、在職10年以上の事務職員が表彰され、決算と予算の承認の後研修会です。

講演は、「監査委員監

左配置図の中央下段は郡役所である。この位置は、焼失した2代目郡役所と同じで、初

代郡役所（第6大区区務所）も所在と思われる。

後に個々の建物につ



旧東田川郡役所配置図

いて述べるが、今は2、3のことに留める。

一つは議事堂東面の3室の付属棟である。昭和13年藤島電気事業組合による増築であり、史跡中最新のものである。

組合は史跡西端に倉庫と付属の土蔵を建てている。倉庫も土蔵造り、藤島地区の土蔵文化に目を当てるであろう。



### 処理水も汚染水

これが自公政治なのだ。というのは、話し合いの約束を守るという世の中の当然が彼らにはないという事だ、と思いませんか。それは福島原発の汚染水の放出の件。汚染水でなく処理水と言え・ダト

▲地元との約束は、皆さんの同意をいただかなければ海には流しません、というものであったが、24日から福島原発の処理水と称する水を流し始めたんだ。

▲処理水とは、核物質を取り除くためのアルプスという浄化施設を通過した水のこと。でも、この浄化施設を通してトリチュウムは取り除けないんだ。だが、ほとんどの放射性物質は取り除けているという。ほとんどの物質とは62種もの核物質を言うんだと。ほとんどと言っているから

また2つの記念碑がある。一つは、議事堂玄関前にある『島野嘉作氏稲作改良碑』（写真）で、2つは明治14年9月明治天皇小休所記念碑である。いずれも近代の歴史に欠かせないものである。

なお郡役所への通りの両側に、百年は経ったと思われる老松があり、史跡に莊重を与えているのも見逃せない。なお最下段の変則5角形は池を示している。（配置図は『保存修理工事報告書』所収）

完全にはないってこと。だから、62種のどんな物がどれ位かの濃度は有なんだ。

▲海岸から1km先に薄めて放出するから害がないといっているんだが、薄めても毒の量は変わらない。中華そばのツユ・うめゝからと薄めても、全部は飲むなよゝとは常識。

▲これが30年続くんだったサ。それは廃炉の完了が30年先だからだ。事故から12年、原子炉に穴が空いているのは分かっているが、何からどう手をつければいいか分からねんだ。手をつけても片付ける置き場がねーんだ。それで30年ダト。その30年は何時からなのかは不明。

▲外国から、日本の物は買わないの声が増えてきているようだが、それに科学的でないと首相が叫んでも効き目はない。これは風評被害？（石川）